



アボリジニアート風模様点描画



松戸向陽高等学校・若見優貴



この授業で付けたい力（題材の目標）

自分や他者が発想した模様を元に、自由な発想で絵画表現することの楽しさを味わい自己や他者の表現の多様性と良さや価値観を認め合う態度を養う。明暗表現の基礎力を身につける。



アボリジニアート



題材設定の理由

アボリジニアートに出会った時、鮮やかな色彩、伝統的な模様配置、細かな模様描写に感動した。中学での講師時代に点描画を指導した際、このアボリジニアートを応用し、点で無く模様で明暗表現ができれば生徒の興味関心をより高め、色彩(配色)の学習にもなるのではないかと始めたのがきっかけである。美しい配色の工夫、明暗での立体感の出し方を身近な細ペンのみで興味深く習得できるため、この題材を設定した。



制作手順

- ①アボリジニアートを鑑賞し、お気に入りの生き物の写真資料を1つ選ぶ。(30分)
- ②資料をよく観察して画用紙に目一杯の大きさに鉛筆で生き物の「りんかく」を描く。そのときに陰影を軽くデッサンをして明暗分けをする。(20分)
- ③細いカラーペンを用意。点、記号、模様の粗密だけで、生き物に色をつけていく。資料を参考にしながら、かげ、模様もからふるにつけていく。(100分)
※資料通りの色・模様にする必要はありません。自由な発想で自分のイメージ画をつくらう。
- ④新聞紙を下にしき、水入れ、太い筆、絵の具を用意し、「りんかく」の外側をその動物のイメージで、彩色する。ベタぬり、水多めでぼかす、しましまにするなど。(30分)
- ⑤雑誌コラージュでアクセントをつけて完成！！(20分)



完成度を上げるコツ

○点、記号、模様を細かく、びっしり埋め尽くすこと！

○うすい(明るい)ところと濃い(くらい)ところを調整する。

うすいところ → 模様のすきまを せまく、模様を 大きく、ペンの色は明るめ。

濃いところ → 模様のすきまを 広く、模様を 小さく、ペンの色はくらめ。



ルール

- 塗りつぶさない。すべて点、記号、模様のみで表現する！ただし、模様を塗るのはOK。
- 点、記号、模様のネタに尽きたら班で相談して良いものをあみだしていこう。
- 校内展示にふさわしくない記号や模様は使わない。
- 点、記号、模様の大きさは1cm未満とする。



観点別評価

(1) 美術への関心・意欲・態度

点の替わりに模様で明暗、色彩表現を行うことに関心を持ち、意欲的、主体的に独創的な絵画作品を制作することが出来た。

(2) 発想や構想の能力

対象となる生き物をよく観察し、その良さや美しさを自分で発想した模様で置き換え、自由な発想をして表現している。想像を働かせ、美しい配色になるよう色彩を工夫している。

(3) 創造的な技能

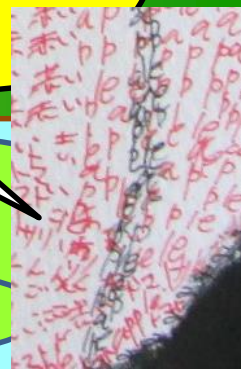
形や色彩によって生まれる美しさを感じながら色彩を構成し、密度ある模様画を描き出している。模様の粗密と色彩で明暗表現することを理解し、陰影表現が出来ている。

(4) 鑑賞の能力

作品の良さや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の仕方の良さを感じ取る。



拡大すると…



生徒の感想

- 点で描く点描画より、集中して制作できた。はまって制作できた。
- いろいろな色のペンで描くことが楽しかった。
- 文字や模様で立体感が出るのが不思議だった。

